

ぶつぶつ

発責者 田中 誠士

六月の本山行事

釋空満地藏尊水子供養法会

日時・六月二十二日水曜日 夏至

受付・八時、法会開始予定十時半

詳細は別紙参照されたし。

★この日は、東日本震災の百か日供養も併せて行います。会場に義援金箱を設置いたしますので、ご協力お願いいたします。

★夏至の夜は、世界中で百万人のキャンドルナイトというイベントが開催されます。夜の八時から十時まで、家の電気を消して、ローソクの光で過しましょう。という企画です。

古代は、世界各地で夏至の日に火を焚いて太陽の復活を祈る儀式があったようですが、これとは関係無いと思えますが、ローソクの明かりだけで過す、被災者と同じ体験をするのも、自命を考える切っ掛けにいいかなと思います。

六月の別院行事

お寺のモーニングサービス 朝粥会

六月五日 日曜日 朝六時から

朝六時から朝の勤行に続き、配膳用意、用意が出来次第「朝粥を頂きます。」その後は座談会でゆっくりして下さい。

参加は無料・ご家族・お友達をお誘い合わせの上、自由に参加下さい。

どなたでも、信者でない方もどうぞ。

★六月十四日、夜のお水取があります。

★二十六日の別院大祭、

★二十九日の本山大祭はありません。

父母恩重經の教え

先月、五月九日に本山にて「母の日供養」を行いました。前日が母の日でしたから一日遅れですが、観音堂にて『父母恩重經』を読み、その意味を勉強しましょうという事です。

このお経の中に、「父母の恩重きこと天の極まり無きが如し」とありまして、父母の恩徳がどれ程尊いかを説かれています。このお経の中では、単語として「父母」は二十六回、「父」は十一回、「母」は三十四回出てきます。やはり、母の方により恩重きことがあるようです。

▼母という字は、「女」に乳首が二つ付いた（母の真ん中の一の上下に付く、が乳首）ことから出来ているようです。赤ちゃんはお母さんの母乳を飲んで成長していくのですから、母の恩重きことは当然です。これを乳哺養育の恩と言います。

赤ちゃんが成長するまでに飲む母乳の量は、一百八十斛（こく）とあります。（180リットル×180です。）こんなに飲むのかな？と思えますがお経に書いてあるのです。

この様にお経の中には、十種の恩徳が書かれています。先ほどの第四番目です。

▼もうひとつ。これはお経の中には出てこない漢字ですが、その成り立ちが分かる文章があります。それは、「若し子 遠く行けば、帰れて其の面を見るまで、出でても 入りても之れを憶い、寝ても覚めても之れを憂う」この想いから出来た漢字が「親」です。「親」の字を分解して見ましょう。「立木に見る」と書いて「親」です。

前述の文章にあるように、子供が家を

出て遠くに行けば、その帰りを待つて子供の顔を見るまでは心配する。余り帰りが遅いと、家のそばの木に登って遠くを見る。ここから、立木に見ると書いて「親」と言う字が出来たのです。これは、九番目の遠行憶念の恩と言います。この様に、親は子供がいくつになっても心配するものなのです。

▼最後にもうひとつ 「己れの生ある間は、子の身に代わらんことを念い、己れ死に去りて後には、子の身を護らんことを願う」これが親の念いであるのです。これが十番目の恩 究竟憐愍（とくきょうれんみん）の恩です。

死して後も、子供を気にかけて、あの世から子供を護ろうと思うのです。これ程の恩徳に如何にして子供は報いるべきか？その事がこのお経には書いてあります。

紙幅の関係でこれ十種全部を解説はできませんが、興味のある方は是非勉強下さい。

▼しかし人間は、「おぎゃあ」と生まれて年老いて亡くなるまで、親ばかりか色々な人の恩を受けながら成長していくものです。親戚縁者、隣近所、学校の恩師、会社の同僚、様々な人達が関わって人間社会が出来ています。

人の間と書いて「人間」です。この「間」が問題で、「間」が違うと「間違」が起こり、「間違った人」になってしまうのです。

ではこの「間」って何か？ですが、人と人の距離であり、間隔であり、関係です。自分と自分以外の人との間を、上手に取れる人が人間なのではないでしょうか？

この「間」を構築するものが、「恩を

知る心」であり、「恩に報いる心」ではないでしょうか？

▼話は変わりますが、「命」と言う字は何故こう書くの？って思っていましたら、先日NHKの「ためしてガッテン」で心臓病をやっていました。そこで知りました。

心臓の「ドクン、ドクン」って音は、心臓内部の弁の動く音でして、心臓には四ヶ所に弁があり、これがきちんと動くから人は生きていられるのです。この弁の「ひとたき」があつて命があるのですから、「人の字の下に一叩き」と書いて「命」なのです。漢字は良く出来ていると、つくづく感心させられました。

心臓病の診察は、この「ドクン、ドクン」を聴診器で聞くのが基本で、この音がおかしかったら、専門の診察を受けるようになるそうです。皆さん病院に行ったら、先生に聴診器を当ててもらって下さい。早期発見、早期治療が一番です。

▼文句も言わず働く心臓を授けて下さったのも、父の胤（たね）であり、母の胎（たい）です。これが命です。

そして、この命が短く、あるいは目の目を見る事無く姿を消していったのが水子です。

しかし、この水子たちは仏の世界でお地藏さまに救われ永遠の命を授けられていのです。そのお地藏さまの恩を知り、恩に報いる行事が、当山の水子供養法会です。

どうぞ皆さん、今の自分の命を思い、その命に感謝して、恩に報いる事が、命が連綿と続く行為ではないでしょうか。どうぞ水子供養法会に参拝下さいませよう、お待ち申し上げます。合掌。